

【参考資料】市民アンケートの結果 (クロス集計)

市民アンケートの概要（第1回懇談会資料：再掲）

●福島市のまちづくりに関する市民アンケート調査

○実施期間：
令和7年10月27日～令和7年11月17日

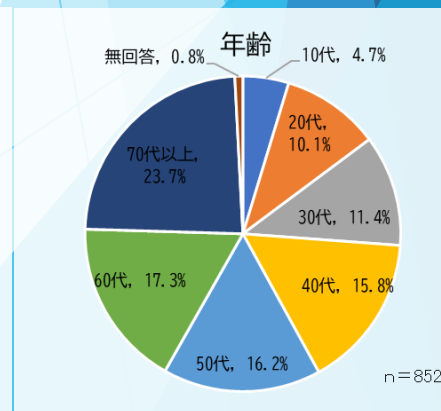
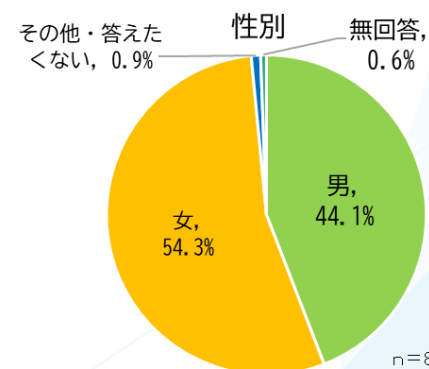
○回答方法：
インターネットおよび郵送

○対象者数：
3,000人（15歳以上の福島市民）
※性別・年代等を考慮のうえ無作為抽出

○回答者：
852人（回答率：28.4%）
※内訳は右表のとおり

年齢層	発 送		回 答		
	発送数	構成比	回答数	回答率	構成比
10代	211	7.0%	40	19.0%	4.7%
20代	516	17.2%	86	16.7%	10.1%
30代	446	14.9%	97	21.7%	11.4%
40代	465	15.5%	135	29.0%	15.8%
50代	421	14.0%	138	32.8%	16.2%
60代	328	10.9%	147	44.8%	17.3%
70代以上	613	20.4%	202	33.0%	23.7%
無回答	—	—	7	—	0.8%
合計	3,000	100.0%	852	28.4%	100.0%

性別	回答数	構成比
男	376	44.1%
女	463	54.3%
その他・ 答えたくない	8	0.9%
無回答	5	0.6%
合計	852	100%

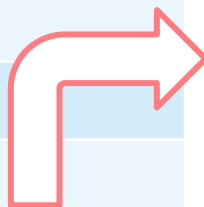


市民アンケートの概要（第1回懇談会資料：再掲）

○アンケート内容

設問内容	
問1	性別
問2	年齢
問3	職業
問4	居住地区（支所単位）
問5	福島市のまちづくりにおける満足度・ 重要度 土地利用、道路・交通、都市防災、 中心市街地活性化、都市景観形成、水と緑、 産業振興、健康・福祉、住宅・住環境、 その他の都市施設、希望ある復興
問6	居住地区における満足度・重要度
問7	居住地区で愛着・誇りを感じる場所や 大切にしたい風景
自由意見	

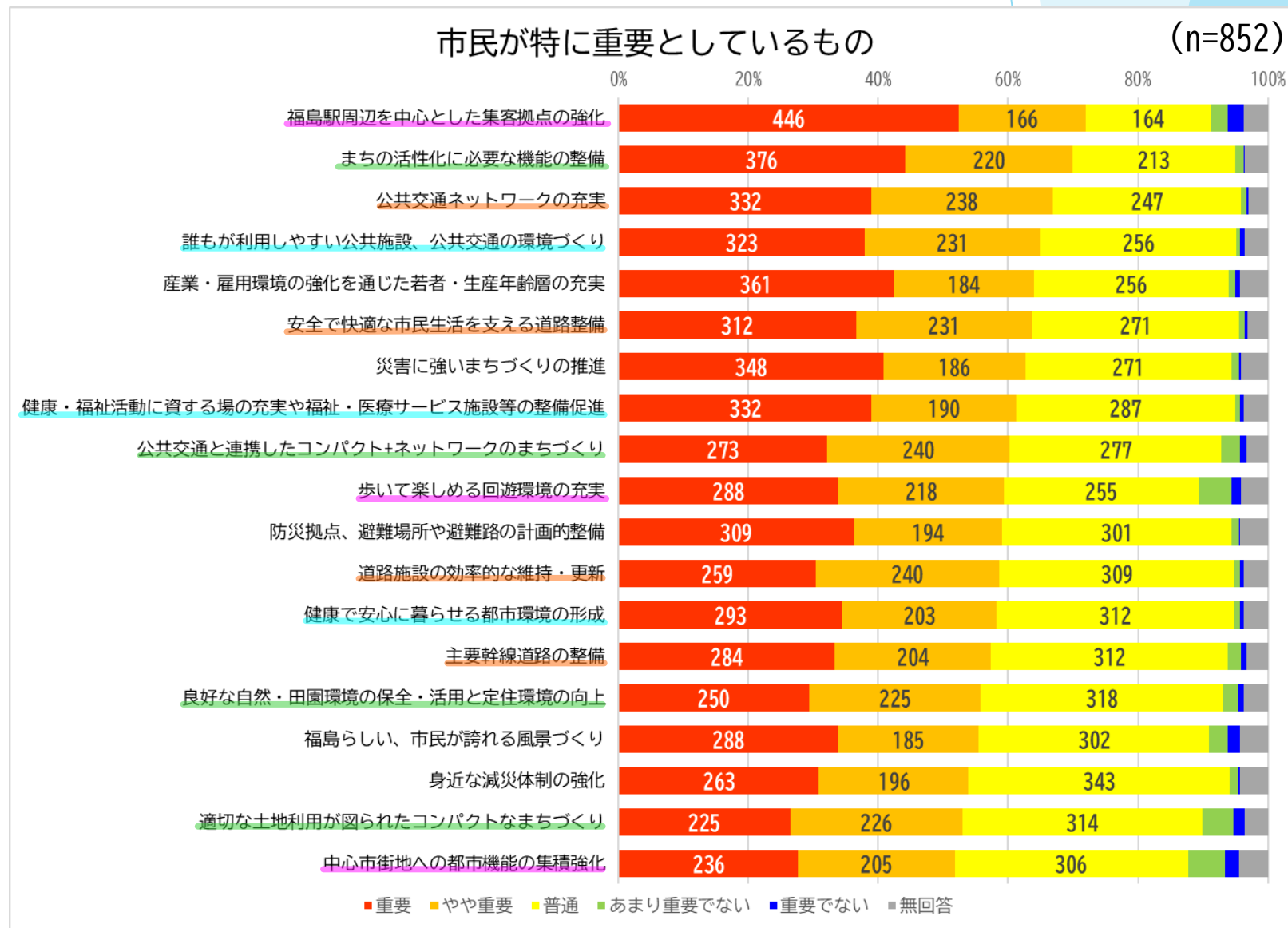
右表の項目について
満足度・重要度を
5段階で評価



1	適切な土地利用が図られたコンパクトなまちづくり	21	良好な景観形成に向けた新たな仕組みづくり
2	公共交通と連携したコンパクト+ネットワークのまちづくり	22	自然資源及び大規模公園などの積極的保全、活用
3	無秩序な市街地拡大防止と適正な市街地確保	23	地域特性を踏まえた水と緑に親しみ愛着を育む都市づくり
4	まちの活性化に必要な機能の整備	24	既存産業の維持増進
5	交通条件の優れた場所における工業流通拠点等の整備	25	交通条件の優れた適地への新たな産業拠点等の導入
6	良好な自然・田園環境の保全・活用と定住環境の向上	26	産業・雇用環境の強化を通じた若者・生産年齢層の充実
7	主要幹線道路の整備	27	健康で安心して暮らせる都市環境の形成
8	道路施設の効率的な維持・更新	28	誰もが利用しやすい公共施設、公共交通の環境づくり
9	安全で快適な市民生活を支える道路整備	29	健康・福祉活動に資する場の充実や福祉・医療サービス施設等の整備促進
10	公共交通ネットワークの充実	30	既存の運動施設等を活かした市民の健康増進の活動支援
11	災害に強いまちづくりの推進	31	多彩な居住環境に対応した住宅・住環境の向上
12	防災拠点、避難場所や避難路の計画的整備	32	住み続けたい住宅・住環境の充実
13	身近な減災体制の強化	33	居住者ニーズを踏まえた住宅・住環境の整備促進
14	中心市街地への都市機能の集積強化	34	既存ストックや民間住宅を活用した公的住宅の供給支援
15	福島駅周辺を中心とした集客拠点の強化	35	市民ニーズを踏まえた公共公益施設の整備
16	歩いて楽しめる回遊環境の充実	36	効率的な公共投資と施設の利用促進
17	まちなか居住の促進	37	公共施設の省エネルギー化による循環型社会の構築
18	福島らしい、市民が誇れる風景づくり	38	原子力災害からの復興による市民生活の安全・安心の確保
19	みんなで守り・育てる「協働」の景観まちづくり	39	産業の振興や復興を先導する拠点整備
20	山並みや山頂からの眺望を守り育てる景観づくり	40	本市の地域特性にあった再生可能エネルギー導入の積極的推進

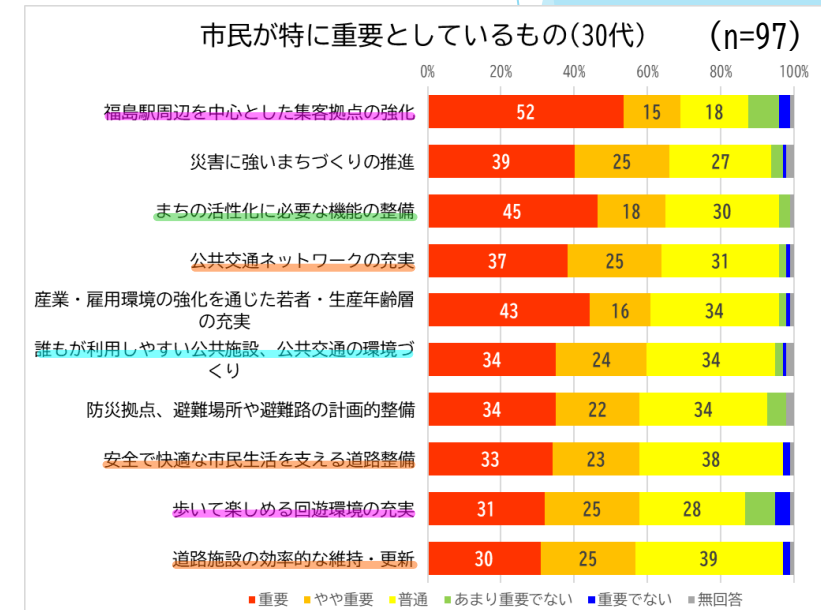
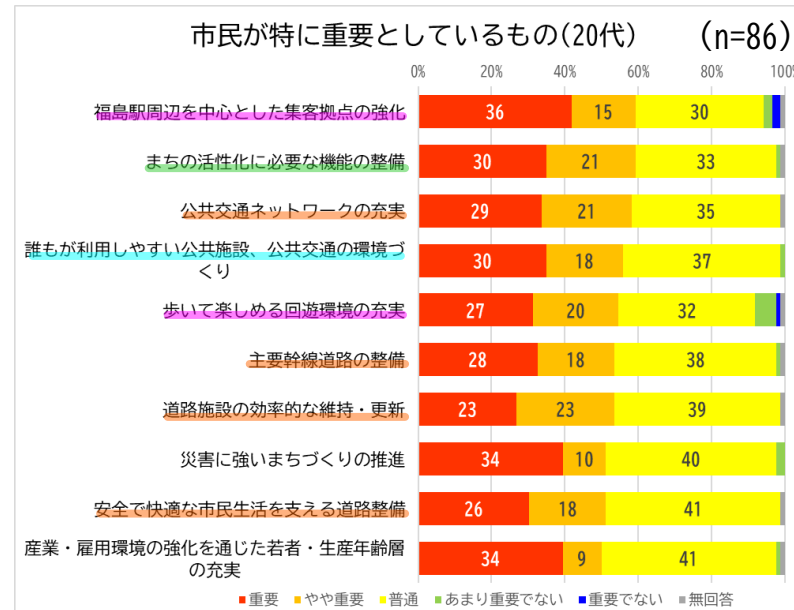
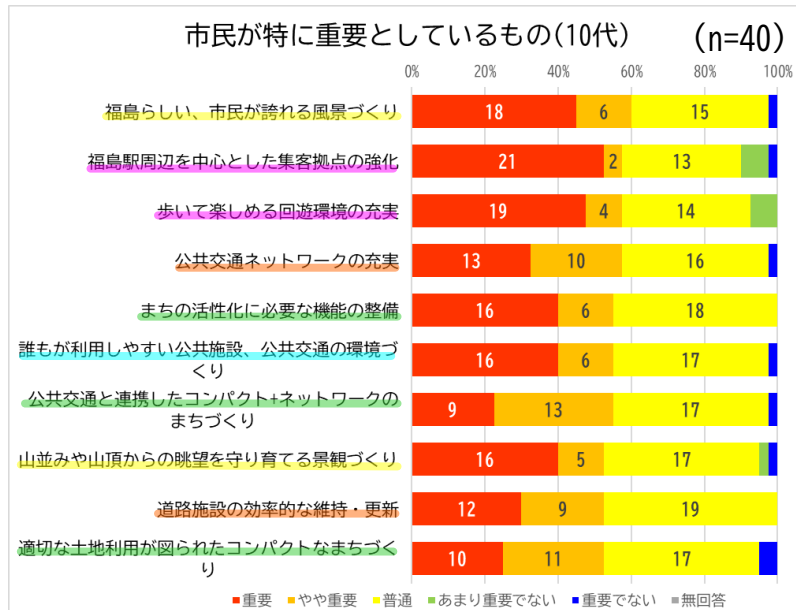
1 特に重要としているもの（全世代合計）

問5の【重要度】で、「重要」「やや重要」と回答した人数の多い順に並べると、**中心市街地**や**土地利用**、**道路・交通**、**健康・福祉**などに関する項目が上位に多く入った。



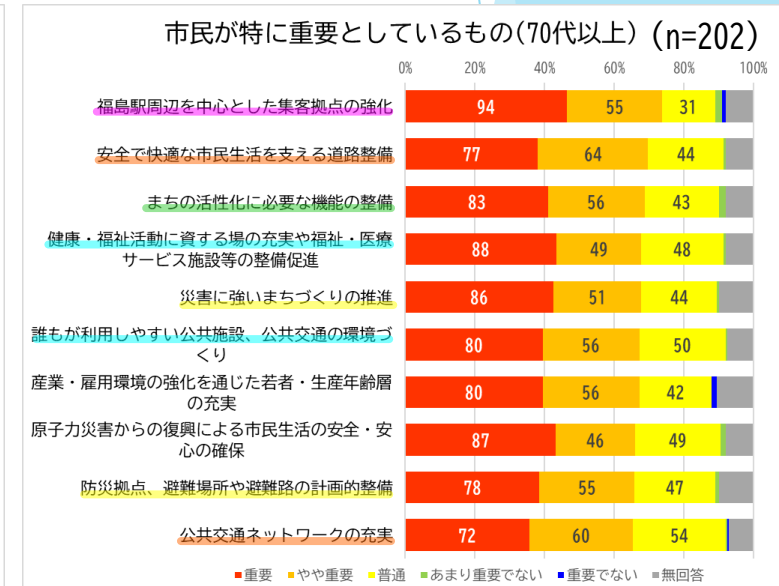
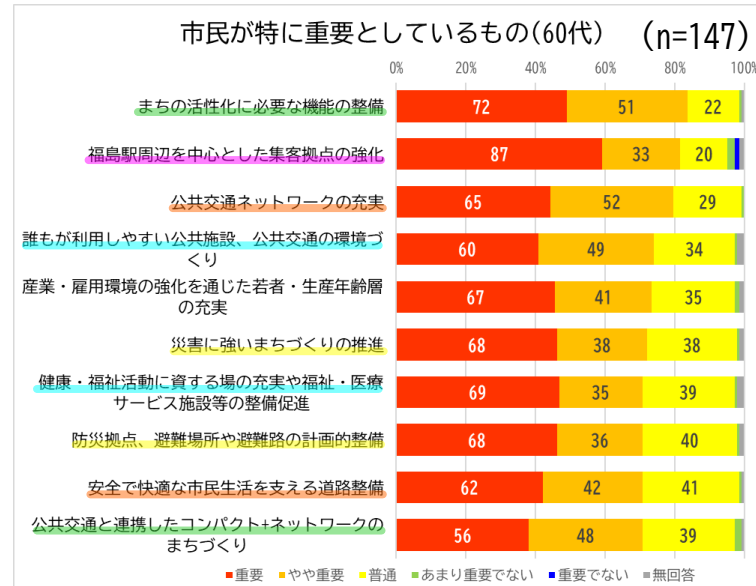
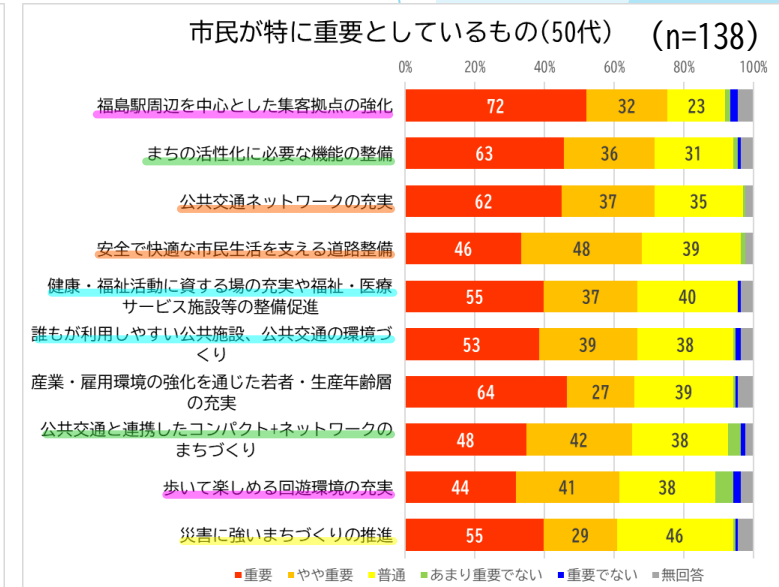
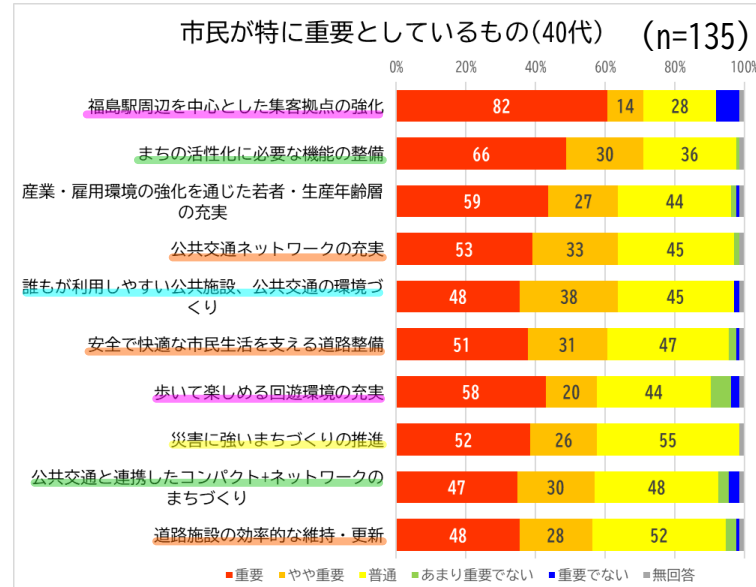
2. 1 特に重要としているもの（10～30代）

10代から30代について見ると、「歩いて楽しめる回遊環境の充実」が多く見られ、中心市街地でのウォーカブルな環境を重要としている傾向にあるほか、「道路施設の効率的な維持・更新」が多く、公共施設の老朽化を懸念していると思われる。なお10代では他世代と違い、「福島らしい、市民が誇れる風景づくり」といった、福島市の景観を重要とする回答が多く見られた。



2. 2 特に重要としているもの（40代以上）

40代以上について見ると、他世代よりも健康・福祉に関する項目が上位に多く入った。また、「災害に強いまちづくりの推進」などの防災に関する項目が多く、災害への対応を重要視している傾向が見られる。なお70代以上でのみ、原子力災害からの復興に関する項目が上位に見られた。



3 特に重要としているもの（まとめ）

- 全世代において多い項目
 - ・「福島駅周辺を中心とした集客拠点の強化」
 - ・「まちの活性化に必要な機能の整備」 → 中心市街地の活性化に期待
 - ・「誰もが利用しやすい公共施設、公共交通の環境づくり」
 - ・「公共交通ネットワークの充実」 → 公共交通の充実に期待
- 世代で異なる特徴
 - ・10代 : 「福島らしい、市民が誇れる風景づくり」 → 景観
 - ・10～40代 : 「歩いて楽しめる回遊環境の充実」 → ウォーカブル
 - ・「道路施設の効率的な維持・更新」 → 老朽化への懸念
 - ・50代～ : 「健康・福祉活動に資する場の充実…」 → 健康への関心
 - ・「災害に強いまちづくりの推進」 → 災害対応
 - ・70代 : 「原子力災害からの復興による…」 → 復興